

日本財団  
もう一つの家における地域づくり等  
2023 年度 事業報告書

## 目 次

1. フライングプラネタリウム	P2
2. いのちの学校	
(1) WILD WOMAN (ワイルドウーマン)	P3
(2) 日本語で語る臨床倫理	P4
(3) こまつ医療・介護連携講演会	P5
(4) 小松がんと共に自分らしく生きる会「まんまーる」	P6
3. ホスピスパートナー養成事業	
(1) とことん当事者の意思決定支援	P7
(2) 認知症・せん妄についての研修会	P7
(3) ホームホスピスのあるまちのつくり方	P8
(4) BCP 実践シュミレーション訓練	P8
(5) ホスピスパートナー養成事業	P9
(6) 地域づくりミーティング	P9
4. 暮らしの保健室	
(1) 医療介護相談	P10
(2) お出かけ暮らしの保健室	P10
(3) 栗津よりあい語り場かっちゃんち	P11
5. 地域入浴支援事業	P13
6. 多世帯交流事業	
(1) 夏祭り	P14
(2) お餅つき大会	P15
(3) お花見交流会	P16
(4) みんなで防災教室	P17
7. 1～6 共通事業	
(1) ホームページの更新	P19
(2) つうしん「こちら末広町 88 番地」の発行	P19
(3) パンフレットの作成	P20

## 1. フライングプラネタリウム

【開催日】8月 8日（火）～ 8月10日（木） コミュニティスペースとんとんひろば  
8月12日（土） もう一つの家ややさん

【内 容】プラネタリウムとソフトをレンタルし、会場で上映する。

【参加者】とんとんひろば：23名 もう一つの家ややさん：スタッフ・入居者 8名

【協 力】一般社団法人星つむぎの村



### 【参加者の声】

- ・フライングプラネタリウムという聞きなれない言葉に興味があり、親子で参加した。部屋が暗幕で暗くしてあり、寝っ転がって見るという初めての体験で楽しかった。
- ・冷房の効いた部屋で気軽にプラネタリウムが楽しめて、贅沢な感じがした。是非また開催してほしい。
- ・子供はプラネタリウムが初めてでとても喜んでおり、親子で一緒に参加してよかった。夏休みのいい思い出になった。
- ・認知症の方やお年寄りもみんなと一緒にというのがよかった。プラネタリウムは綺麗で素敵だった。
- ・ややさんではリビングの天井を使うしかなく、お部屋も真っ暗にできなかったが、それでも入居者さまが楽しまれていたのでよかった。外出の少ない入居者さまにこのような企画がもっとあるといいと思った。

## 2. いのちの学校（生と死の文化を学び語り合う学校）

### （1）WILD WOMAN2023「ソラをみあげてイノチをおもう」

【開催日】7月2日（日） PART 1 13:30～15:30 / PART 2 18:30～19:30

【会場】PART 1 コミュニティスペースとんとんひろば / PART 2 SENNO

【ゲスト】高橋真理子（星つむぎの村）、高瀬“makoring”麻里子（歌手）、覚和歌子（詩人）、栗田妙子（ピアノ）、鳥毛こずえ（にんぎょうげきやさん）

【参加者】PART 1 22名（うち子ども3名）、PART 2 2名

【評価】音楽と詩の朗読とプラネタリウムと影絵・人形劇を通じて、参加者それぞれがいのちのことを想う充実した企画だった。乳幼児連れの親子から高齢者、がんや難病を抱えた当事者の方が参加され、音楽などを通じた垣根のない交流の機会となった。訪問看護を利用されている痛みを抱えた女性が久しぶりに友人と外出するきっかけになったと喜んでおられた。



まこりんと覚さんの歌声



詩の朗読 覚和歌子さん



人形劇と影絵 鳥毛さん



天井に映し出された  
プラネタリウム



PA:ピアノと影絵の  
セッティング中



仲良しの友人仲間でご参加



【PART 2】  
カリンバで歌うまこりん

## 【アンケート】

- ・歌や詩の朗読とプラネタリウムや人形劇もあって得した気分になった。楽しかったです。
- ・プラネタリウムで遙か遠くの宇宙に旅をして、今ここにいる自分が愛しくなった。
- ・影絵と人形劇がおもしろかった。
- ・はじめてお会いした方々と一緒に寝転がってプラネタリウムを見上げるなんて、不思議な体験だったけれど、いい時間でした。
- ・友人と参加しました。覚さんの朗読が心にしみて力をもらいました。
- ・まこりんの歌声にエネルギーを沢山頂きました。今年も1歳になった息子と親子で参加できました。やあのいえのみなさま、ご配慮ありがとうございました。
- ・贅沢な時間でした。こんなにすぐそばで歌や詩の朗読を聴けるなんてなんて幸せ♡
- ・まこりんの大ファンです。今回もキレイな歌声とステキな詩の朗読にとっても癒されました。
- ・いつもとんとんひろばでお世話になっています。心が浄化されました。今後ともよろしくお願いたします。
- ・生の音楽はやっぱりいいです。そしてプラネタリウム。豊かな時間をありがとう。

## (2) 日本語で語る臨床倫理

【開催日】7月15日(土) 13:30~16:00

【会場】コミュニティスペースとんとんひろば

【講師】「岐路に立つACP」新田クリニック院長 新田國夫先生  
「自己決定の畏」ジャーナリスト 迫田朋子氏

【参加者】16名(医療保健福祉従事者、一般市民)

【評価】病気になったときの療養場所の選択について現状と課題について学んだ。医療保健福祉従事者と在宅看取りを経験されたご家族の参加があり、座談会ではそれぞれの言葉で人生の最期の時間の過ごし方について本音で語り合えた。参加者の大半が医療保健福祉従事者で、一般の方々に自分ごととして、関心を持っていただけるよう広報のあり方を検討していく必要がある。



### 【参加者の声】

- ・人生会議については聞いたことがあったが具体的に学んだのは、はじめてだったが、とてもわかりやすく自分のこととして考えることができた。
- ・人生の最期は病院だと思っていたが、新田先生の在宅医療のお話を聞いて自宅で過ごせる可能性があることを学んだ。小松でも自宅で最期まで過ごせるのだろうか？
- ・小松の在宅医療を担う医師が不足している実態を知って将来が不安になった。
- ・迫田先生から自分が望む最期の時間の暮らし方を家族で語り合っておきたいと思った。

### (3) こまつ医療・介護連携講演会

【開催日】10月7日(土) 18:30~20:00

【会場】サイエンスヒルズこまつ わくわくホールC

【参加者】45名(一般市民、医療福祉従事者など)

【内容】「2040年を見据えた地域医療構想 ―社会システムとしての医療と福祉―」

講師：厚生労働省医務技監 迫井正深氏

【評価】「こまつ認知症ほっとけんサミット」と連動する形で前日の夜に開催した。

小松市医師会、小松市との共催で広報を行うことで、一般市民だけでなく、医師や病院関係者、行政関係者の参加が多かった。将来的地域医療の在り方を現在の課題から見据えた講演内容は、小松の地域医療の在り方について一同で考える貴重な機会となった。小松に医務技官をお迎えでき、医務技官との交流の機会が提供できて有意義な時間だった。迫井氏には、翌日のこまつ認知症ほっとけんサミットにもご参加いただき交流を深めていただいた。ホームホスピスもう一つの家やさんの見学、コミュニティスペースとんとんひろばでは聞き書きカフェにもご一緒いただくなど、当法人の活動をご紹介させていただく機会をいただき、ホームホスピスの現状と課題をご理解いただくことができ、今後につなげることができた。



#### 【参加者の声】

- ・厚生労働省の医務技監の講演を身近に聞くという大変貴重な機会をいただき感謝している
- ・ほっとけんサミットへの参加をきっかけに本講演のを知ることができ有意義だった。

#### (4) 小松がんと共に自分らしく生きる会「まんまーる」

【開催日】毎月第4日曜日 13:30~15:30

【会 場】コミュニティスペースとんとんひろば

【参加者】述べ65名（当事者、家族、医療福祉従事者など）



【内 容】病院ではない身近な場所でがんについて語り合える場所が欲しいという要望に応じて実施。交流座談会、絵手紙、クリスマスリース作り、元ちゃんハウスの視察などを行った。参加者に毎回お知らせすると共に、小松市の広報にも毎月お知らせを掲載し、新しい方をお迎えしている。

【評 価】「まんまーる」だけは絶対行きたいと体調を整えて楽しみにされている方が多い。当事者同士のおしゃべりなどから療養のヒントをいただいているとのこと。次回の計画をみんなで話合うようになった。絵手紙、クリスマスリース作り、元ちゃんハウスの視察などの希望があり実現した。若い頃から合唱に取り組んできた方が最後の合唱と「エーデルワイス」をご披露いただいたことは忘れられない思い出となった。お一人おひとりの思いをお聞きし「まんまーる」以外の時にも声をかけあっているスタッフの細やかな心配りも、来られる方の安心感につながっている。



#### 【利用者の声】

- ・まんまーるでは不思議と不安や弱音も何でも話せます。
- ・クリスマスリース作りは抗がん剤治療の只中でしたが、どうしても参加したいと思ってきました。きれいにできてうれしかったです。玄関に飾ってみんなに見ていただきます。
- ・西村元一先生の新聞記事をずっと読んでいました。ずっと元ちゃんハウスを訪れてみたいと思っていたので、みんなで出かけることができうれしかった。外食も久しぶりでご褒美のような一日でした。

### 3. ホスピスパートナー養成事業

市民・学生・医療福祉従事者・在宅介護体験者などを対象に「看取りの文化の育み」「とことん当事者」「人として出会う」「聞き書き」を基軸に、地域でケアを受けている在宅療養者の人生を豊かにするパートナーとして活動していただける人材を養成する。

#### (1) とことん当事者の意思決定支援

【開催日】8月27日（日）13：00 - 15：30

【会場】コミュニティスペースとんとんひろば

【講師】山梨市立牧丘病院 古屋聡先生

【参加者】12名（がん患者さん、一般市民、医療保健福祉従事者）

【内容】講師のご両親の意思決定支援の体験について親の立場・長男の立場でリアルな本音のプロセスをお話いただき、自分だったらと考える貴重な学びだった。講演のあとの座談会では、小松がんと共に自分らしく生きる会「まんまーる」の方々も参加され、今の思いを語られた。意思決定は100人100様であると学んだ。

【評価】十分な広報ができず参加者数は少なかったが、座談会はざっくばらんで活発だった。



#### (2) 認知症・せん妄症状についての勉強会

【開催日】3月6日（水）16：30～17：00

【会場】ホームホスピスもう一つの家ややさん

【講師】精神科医 上野秀樹先生

【参加者】9名



【内容】認知症見立て研修を開催されている上野先生にお願いし、認知症とせん妄症状のアセスメントのポイントについて講義を受けた後、現在課題となっている夜間せん妄が続くホームホスピスの認知症の入居者の事例をもとに具体的に学んだ。過去のアルコール過剰摂取・糖尿病のコントロール、現在内服中の薬剤等をアセスメントし、内服薬がせん妄症状の原因となっている可能性があることがわかった。参加できなかったスタッフには伝達講習を行った。

【評価】勉強会のあと、訪問診療医と相談し精神科を受診していただいた。内服薬が見直され、せん妄症状が改善した。具体的な事例を上野先生と見立てひも解くプロセスはとても勉強になり、スタッフのせん妄への理解が深まり、共通言語ができて効果的だった。



### (3) ホームホスピスのあるまちづくり

【開催日】5月13日(月) 14:00 - 16:00

【会場】ホームホスピスもう一つの家やさん

【講師】ホームホスピス神戸なごみの家 松本京子氏

【参加者】9名



【内容】ホームホスピスとは何か、ホームホスピスにおける生活支援の目指すところ、ホームホスピスが地域に果たす役割について、神戸なごみの家のこれまでの実践から学んだ。

能登半島地震の勝山の福祉避難所に支援に入られている方が、今後、民家を活用した居場所づくりが必要なのではないかとややさんの見学も兼ねて参加され、貴重な交流の機会にもなった。



### (4) BCP 実践シュミレーション訓練

【開催日】5月21日(火) 13:00 - 14:00

【会場】88Labo 3階研修室

【講師】一般社団法人コミュニティヘルス研究機構  
コミュニティヘルス研究部機構長 山岸暁美先生

【参加者】13名



【内容】BCPの目的や意義について、能登半島地震におけるBCPの発令の現状についてのお話のあと、BCP発令のシミュレーション訓練をモデル事例で行った。

昨年度中に法人全体で、山岸先生が発案されたBCPの立案プロセスに沿ってBCPを立案した経緯があり、立案したBCPをどう具体化していくかが課題だったが、シミュレーション訓練を行うことで衝撃とリアリティを感じる事ができた。ひとつひとつの場面での選択はそこにいた参加者ひとりひとりで違ってよく、どうしてそのように考えたかを語り合うことを繰り返し行うことが大切であることを学んだ。



### 【参加者の声】

- ・能登半島地震という具体的事例の後でのシミュレーション訓練に、かなりの衝撃を受けた。本当に勉強になった。
- ・昨年からBCPについて学んでいるが、どれほど重要なものであるか改めて理解した。
- ・BCPの発令にあたってはシミュレーション訓練を定期的に行い、スタッフ間で語り合う機会を繰り返し持っていきたい。

## (5) ホスピスパートナー養成事業

【受講生】延べ30名、37日

【受講動機】・尊厳ある排泄ケアの実際を学びたい

- ・能登半島地震の支援を通じて自分がやりたい看護について考えるようになった
- ・ホームホスピスで働くか、または開設を考えている
- ・訪問看護への就職を考えている



【研修内容】受講生のニーズを把握し、ニーズにそったプログラム案を作成した。能登半島被災地支援を通じて、便秘や尿失禁など排泄に課題を抱える方との尊厳ある向き合い方を具体的に学びたいという希望が多かった。コンチネンスケアの理念、排泄のメカニズムとアセスメント、排泄ケア方法の選択、排泄のアセスメント票と排尿チェック表・排便チェック表の見立てとケアの選択方法を学んでいただいた。

【評価】受講生は能登半島地震を経てDC-CATとして被災地支援を継続的にされている。受講生の一人は本研修後、在宅看護センターの開設を目指して笹川記念財団の研修会を受講している。POOマスター養成研修会を受講後、地域でおなかの保健室を開き活動を継続されているなど、成果を上げることができた。

## (6) 地域づくりミーティング

【開催日】1月22日(月)、2月22日(木)、4月25日(木) 16:00~17:30

【会場】コミュニティスペースとんとんひろば

【内容】ホームホスピスもう一つの家ややさんが、地域に開かれた場所となるためにややのいえの「とことん当事者」「人として出会う」の理念の具体化のために、これまでややのいえで地域の方々と企画から運営まで一緒に行なってきたプロセスを学んだ。INPUTした学びをOUTPUTするために令和6年度は、お餅つき大会や夏祭りなどの企画を地域の方にもお声かけし、一人一役で企画・運営していくこととなった。

【参加者】延べ20名

## 4. 暮らしの保健室

### (1) 医療福祉相談

相談は随時対応している。ホームホスピスはいつも満室のため、ご家族から入居希望があった場合は、来所や訪問による相談につなげて、ホームホスピスを希望されるきっかけから、お別れが近いご家族との残された時間の中にいる家族介護者が予期的悲嘆の中で抱えている不安について語っていただくようにしている。若年性認知症やアルツハイマー型認知症の方のご家族や関係機関からの相談や家族や友人などの愛する人を亡くされた方からのご相談にも対応している。公立小松大学の実習生の受け入れも行った。



### (2) お出かけ暮らしの保健室

【経 緯】能登半島地震を受けて、「ややのいえ能登応援チーム」を立ち上げた。能登の被災地支援にあわせて、粟津温泉に2次避難されている方々の支援について、小松市にNPO法人としての支援のあり方を相談したところ、輪島市深見地区の山下区長さんをご紹介いただいた。山下区長さんから避難の現状をお聞きし、ハンドマッサージをしながらお話をお伺いしたり、血圧測定などの健康相談やお通じに悩んでいる方が多いとのことから便秘や下痢や尿失禁などの相談を受けるお出かけ暮らしの保健室を開くことになった。客室や旅館のロビーや食堂となっている場所をお借りし、旅館を巡回した。また小松市主催で粟津演舞場を会場に健康教室が開催されるようになり、ハンドマッサージと相談コーナーを開かせていただいた。5月末に深見地区の方々が輪島の仮設住宅に移られたので終了した。

【開催日】1月17日（水）から5月末までの毎週水曜日 10:00～12:00

【会 場】粟津温泉2次避難所の旅館 4か所

【内 容】ハンドマッサージ、血圧測定、健康相談、うんちッチ相談、おなかのマッサージ、BENIKUHANDBOOK・うんち力アップ大作のチラシの配布、乳酸菌・ビフィズス菌飲料や製剤、高発酵性食物繊維、お菓子、みかん等の配布

【評価】 高血圧や糖尿病などの疾患を抱えた方や要支援要介護の方々は小松市の保健師がフォローして下さっていたが、お通じの相談には対応していなかった。一方平時は健康だった方の中にもお通じで悩んでいる方、便秘で救急搬送された方、不安で過呼吸になり救急搬送された方、食欲が低下したりうつ傾向になっている方がいた。ハンドマッサージや息を吐く深呼吸を促すことはリラクゼーションにつながり、回を重ねるにつれて顔なじみになりお話ができるようになり、ハンドマッサージを待つて下さるようになった。トイレトペーパーや下着などの不足物品は、ニーズに合わせて届けることができた。



【参加者の声】

- ・震災以降、便秘に悩んでいたのが助かりました。おなかのマッサージは自分で続けてみようと思います。
- ・息を吐くことずっと続けています。おかげで食欲も出て夜も眠れるようになりました。
- ・ハンドマッサージをしてもらうと何ともいえないくらい気持ちよくて楽になります。
- ・お話するだけでも気が晴れます。心を寄せてくれてありがとう。

(3) 粟津よりあい語り場かっちゃんち

【経緯】 同じ町から2次避難されているが、旅館がそれぞれに違うのでゆっくり話ができる場所がなくて困っているというニーズがあることをお話していたら、粟津温泉にお住いの石田さんがご自宅を開放したいとお申し出くださった。

【日時】 4月17日～5月末までの毎週水曜日 13:00～16:00

【会場】 粟津温泉近くにある男性介護者の会の石田さんのご自宅

【評価】チラシを粟津温泉の旅館に配布したり、石田さんの自宅にチラシを貼り、広報を行った。石田さんのご厚意で気持ちが休まるスペースを1階と2階の二部屋ご用意いただいた。輪島市深見地区の方が定期的にご利用された。又、粟津町内で自宅が被災し暮らせなくなりアパートで暮らされているという方がチラシを見て、友人と来所された。近隣のクリニックが閉院し通院に困っているなど健康上の不安を抱えておられた。ご本人とご相談して地域包括支援センターを希望されたので連絡し、おつなぎすることができた。



#### 【参加者の声】

- ・旅館では部屋にこもりがちで将来のことを想うと気持ちも沈みがちだった。同じ町から粟津に避難している友人達とも集まる場所がなく電話で話すだけだった。旅館からすぐのところみんなで集まる場所ができて、避難してきてからはじめてゆっくりみんなでおしゃべりができて気持ちも楽になった。
- ・被災後のお互いの様子を語り合うこともできずにいたので、これから一緒がんばろうと思えました。
- ・遠慮なく気を張らずに利用させていただけました。ありがとう。
- ・粟津町内で被災した人は少なくて知られていない。慣れないアパートでの生活で足が弱って杖がないと歩けなくなってやっどこき歩いている。血圧も心配だったので、こんな近くに相談できる場所があって安心した。話を聞いてもらえただけで楽になった。

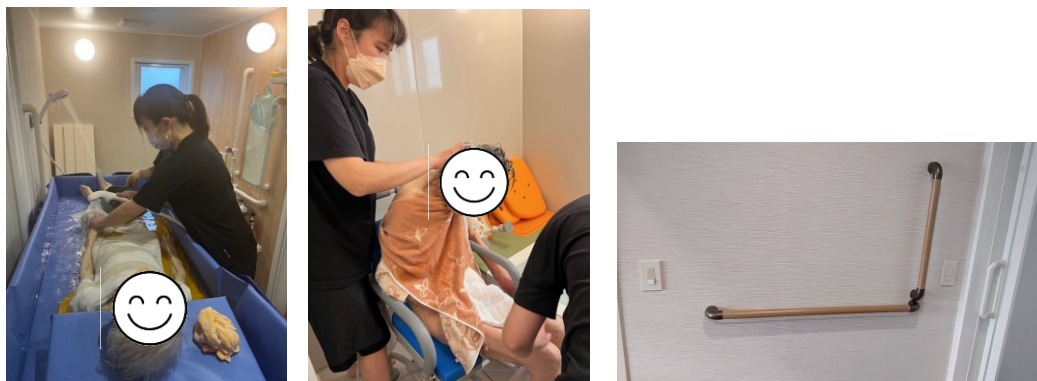
## 5. 地域入浴支援事業（終末期・障がい者等の入浴困難者の入浴の支援）

【期 間】令和5年4月～令和6年6月 月曜日～金曜日

【内 容】「もう一つの家ややさん」の浴室を利用し自宅での入浴が困難な方の入浴の支援を行った。福祉車両の車両借上げを行い送迎もスタッフが対応した。シャワートロリーを利用していましたが、手すりを設置することで、一般浴槽での入浴が可能と思われる利用者がいたことから自立支援になればと手すりの設置を行った。

【利用者】延べ18名

【評 価】新型コロナウイルス・インフルエンザの感染拡大の影響が続いたこと、またホームホスピスの入居者が満室になったことで、入浴介護スタッフの体制が整わなかったことから、積極的な広報ができなかった。手すりを設置したことから、シャワートロリーでの入浴だけでなく、一般浴槽の活用が可能となった。



### 【利用者の声】

- ・シャワートロリーでの入浴をはじめて経験したが楽に気持ちよく入浴できました。
- ・自宅で2人がかりで入浴介助をしていたが、こちらの入浴支援を受けるようになって楽になった。
- ・手すりのおかげで不安なく一般浴槽への入浴にチャレンジできてうれしかった。
- ・昨年に引き続き、だんなの出張中に重身の子どもの入浴に利用させて頂いた。毎回ほんと助かります。ずっとこの支援が続いてほしいと願います。

## 6. 多世代交流事業

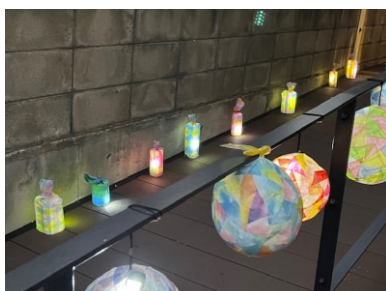
### (1) 夏祭り

【開催日】8月11日（日）

【会 場】ホームホスピスもう一つの家やさん前

【参加者】参加者数約 100 名

【評 価】ホームホスピスができてはじめての夏祭りをやさんのスタッフが中心となり企画し開催できた。末広町町内会には、回覧板による広報や、末広町公民館を開放していただいたり、ゲームをお借りしたりと多大なるご協力をいただいた。又、近くのまちの氷屋さんのかき氷をゲームの景品にするなど近隣の方々との貴重な交流の機会となった。ホームホスピスについて聞かれる方も沢山いて、何かあったときはやさんに相談するので頼むと言われる方もいた。予想を上回る方にご参加いただき大盛況だった。



### 【参加者の声】

- ・スイカ割りや花火ができて夏休みのいい思い出になった
- ・やさんの夏祭りを毎年楽しみにしています。
- ・毎年、趣向を凝らした演出ありがとうございます。ランタンの明かりきれいでした。

## (2) お餅つき大会

【開催日】3月3日(日) 10:30~12:00

【参加者】約100名

【評価】能登半島地震があり開催を悩んだが、地域の方々からの要望もあり、3月に開催した。ややさんがある末広町の方々、NPO法人ホームホスピスこまつの会員さん、訪問看護のご利用者さんご家族、ホームホスピスの入居者のご家族やご遺族の方々の参加があった。1月に珠洲市から避難されてきたご家族も参加して下さい、奥さんをややさんでお看取りされた80歳のご主人が杵をふるって下さった。



### 【参加者の声】

- ・たくさんの子供達に混ざって我が子もお餅つきに初挑戦。とっても喜んでいました。
- ・楽しく参加させて頂きました。お世話になったややさんに足を運ぶ機会があるのは、嬉しいです。是非また声をかけて下さい。
- ・お友達に誘われて、急ぎよ参加しました。震災があつてバタバタしていましたが、気分が晴れました。来てよかったです。
- ・つきたてのおもちサイコー！豚汁もおいしかった。
- ・納豆餅美味しかったです。レシピ聞いたので、家でも挑戦してみようと思います。
- ・来年も必ずしてね。



### (3) お花見交流会

【開催日】1回目：4月4日（木） 2回目：4月11日（木）

【参加者】1回目：12名、2回目：12名

【内 容】4日、11日と2週にかけて芦城公園でお花見交流会を行った。4日は風が冷たくとんとんひろばに戻ってお花見弁当を食べながら交流した。11日は芦城公園でお弁当を広げて交流したあと、近くの小松市宮本三郎美術館で2024年北陸新幹線小松駅開業記念特別展「長谷川町子がやってきた」の見学も行った。

【評 価】親子連れや認知症や病気を抱えた方から、今年もお花見を楽しめたことを喜んでいただいた。満開の桜の咲く中でお花見弁当を広げながら昔話やご家族の話など普段語らない方からも沢山お話を聞くことができた。ややのいえのスタッフや訪問看護のご利用者のご家族で作った男性介護者の会「あぐらの会」のお2人に設営準備のご協力をいただいた。



#### 【参加者の声】

- ・若い頃は毎年家族と芦城公園にお弁当を持ってお花見にきていた。久しぶりにお花見ができてみんなでお弁当までいただけて楽しかった。
- ・とんとんひろばからみんなで一緒に歩いて行けて結構やった
- ・家にいるときとはまったく違う明るい表情を見られてうれしかった
- ・手作りの心のこもったお花見弁当、本当にありがとうございました。お花見団子も美味しかったです。
- ・外出が難しくなってきたので、皆さんと一緒にだと安心です。
- ・今年もみんなとお花見に来てよかったです。写真もいい写真がいっぱい撮れました。ブログを担当することになったので、今年の桜とみなさんの笑顔をアップさせていただきますね。

#### (4) みんなで防災教室

【開催日】毎月第3金曜日

6/16、7/21、8/18、9/15、10/20、11/17、12/15、1/19、3/15、4/19、5/24、6/21

【内 容】2年前の浸水被害や能登半島地震を受けて防災に関心を持つ人が増えた。それぞれが気づいたこと、体験したことを情報交換し、楽しく学び合うことを目的に「みんなで防災」を毎月開催した。簡単防災食の体験の他、オリジナルゲームや日めくり防災カレンダーの作成なども行った。又、本教室で学び合ったことをまとめて、とんとんひろばを利用している親子や高齢者に伝えている。

- ・6/16 キッチンポリで防災食
- ・7/21 我が家の防災バッグ
- ・8/18 災害時のトイレどうしよう
- ・9/15 避難所問題解決トーク会
- ・10/20 とんとんひろば避難所計画
- ・11/17 防災訓練報告
- ・12/15 冬への備え
- ・1/19 持ち寄り防災バッグ
- ・3/15 ゲームで確認！防災バッグ
- ・4/19 マイトイレセット作り
- ・5/24 オリジナル防災日めくり作り
- ・6/21 ひと鍋で一汁一菜にチャレンジ

【評 価】毎月開催していることが、防災に対する意識付けとしての十分な役割を果たしている。特に小さなお子さんを持つ母親の意識が高いことがわかった。今後はもっと幅広い年代に働きかけ巻き込んでいきたい。又、好評だったオリジナルゲームなど更に展開していけたらいいと思う。



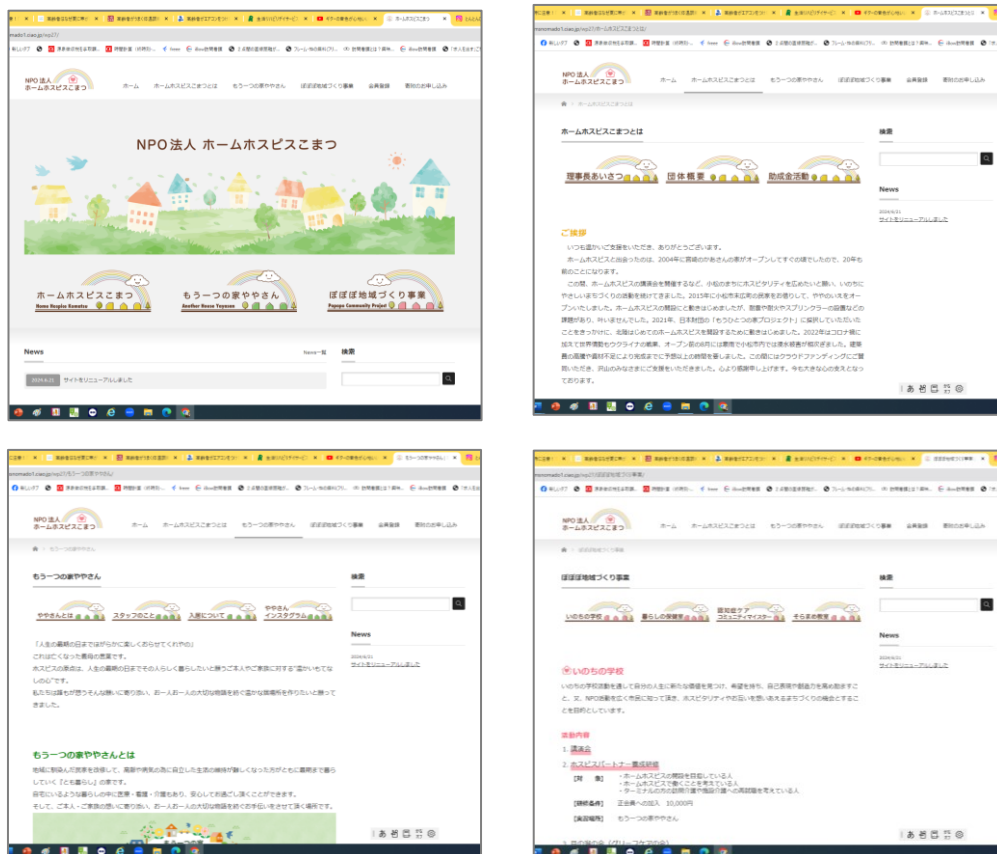
### 【参加者の声】

- ・ いざという時のために備えることの大切さはわかっていても何もしていなかった。  
みんなで集まって準備することで備えが整ってきたし、いろんな情報も聞けて楽しい。
- ・ 必要なものリストをみんなで話し合ってから、自分でも家族に合わせたリスト作成を試してみた。
- ・ 転勤族なので、この防災教室で出会った方々との普段からの関わりが、いざというときに貴重だと思う。参加してよかった。
- ・ 震度6の地震のあと3日間自家用車内で避難生活を体験した方から、防災バックを車に常備していると聞いた。いろんな気づかないところに気づくことができるので勉強になる。
- ・ 防災バックに履物や下着なども入れた。ラップやアルミホイルも買い足した。
- ・ ほぼ100円均一で安価に揃えることができることを学べてよかった。

## 7. 1～6 共通事業

### (1) ホームページの更新

【内 容】<https://hkh883.com/>



【評 価】当法人が「NPO 法人いのちのちによさしいまちづくりほほほねっと」を吸収合併したことより、ホームページのリニューアルが必要となった。作業には時間を要したが、更に見やすく情報発信しやすい形となった。

### (2) つうしん「こちら末広町 88 番地」の発行

【対 象】NPO 法人ホームホスピスの会員

開設時のクラウドファンディングでご寄附を頂いた方  
能登半島地震の被災地支援でご寄附をいただいた方

【発行日及び部数】・第 3 号（7 月発行） 700 部

・第 4 号（6 月発行） 800 部

【評 価】年に 4 回の発行を目標としていたが、吸収合併を始めとした業務の多忙化、又、能登半島地震発生後の被災地支援により、発行が難しかった。情報発信が行き届かなかった 1 年だったと反省している。

### (3) パンフレットの作成と配布

【製作物】「ややのいえのものがたり」「こんにちは！ややのいえです」

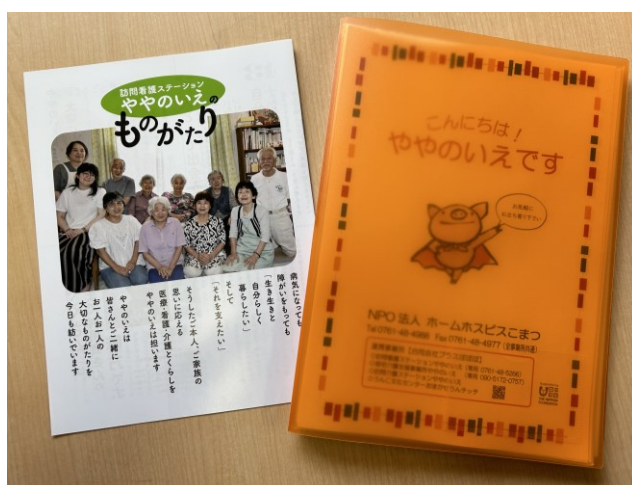
【内 容】「ややのいえのものがたり」

病いや障がい、そして誰にも訪れる死を、暮らしの中で自然に受け止め、次の世代に命の輝きを手渡す「看取りの文化」を伝えるために作成した。訪問看護のご利用者さんのご家族から伺ったご自宅での介護やお看取りの体験談の他、ややのいえが大切にしている4つの理念である「とことん当事者」「人として出会う」「自分事として考える」「十位一体のネットワーク」について紹介している。

「こんにちは！ややのいえです！」

当法人のもう一つの家ややさんの他、訪問看護ステーションややのいえ、訪問介護ステーションややのいえ、居宅介護支援事業所ややのいえ、うんこ文化センターおまかせうんチッチ、暮らしの保健室など、多岐にわたるややのいえの全体の活動をご理解いただくために各事業内容の詳細をまとめてファイリングしたものです。大学病院、病院、クリニック、地域包括支援センター、ケアマネジャーなどに配布した。

【配布数】2800部



【評 価】地域づくり事業の中で看取りについて体験談をまとめたかった。目標が達成してよかった。ややのいえが4つの理念をもとに当事者やご家族のものがたりを大事にしていることを伝わると思う。

又、これらを受け取った各関係機関からはこんなものが欲しかったと好評であった。